

東証スタンダード市場・福証
証券コード：6998

決算補足説明資料

2023年3月期（2022年度） 第2四半期決算概要

2022年11月10日



2023年3月期（2022年度）第2四半期業績概要

参考資料

1. 当社の注力市場と事業セグメント
2. 今回発表のポイント
3. 連結業績の概要
4. 主な経営指標
5. セグメント別の状況
6. 財務の状況（連結）
7. キャッシュ・フローの状況
8. 剰余金の配当
9. 今後の見通し

業績の推移（連結）



2023年3月期（2022年度） 第2四半期 業績概要

1. 当社の注力市場と事業セグメント

注力市場	事業セグメント別の主な商品	
	機械部品事業	電機部品事業
半導体・電子部品市場	 <p>ハードディスクドライブ (HDD)用磁気ヘッド基板</p>	 <p>プラズマ電極</p>
自動車部品市場	 <p>二軸押出機用部材</p>	 <p>E V用接点 電装部品溶接用の抵抗溶接電極</p>
産業用機器・部品市場	 <p>産業用設備向けの耐摩耗部材 二軸押出機用部材</p>	 <p>ブレーカー用電気接点</p>
衛生用品機器・医療用部品市場	 <p>N Tダイカッター</p>	 <p>医療関連カテーテル用タングステンワイヤー製品</p>

2. 今回発表のポイント

2023年3月期（2022年度）第2四半期決算の総括

- ・第2四半期の業績は、連結・個別ともに2期連続で増収増益。
- ・連結決算では、第2四半期決算開示制度以降で、連結売上高・連結経常利益が過去最高を記録
- ・個別決算では、第2四半期決算開示制度以降で、経常利益が過去最高を記録

注力市場の概況

- ・半導体・電子部品市場 : 好調を維持
- ・産業用機器・部品市場 : 国内外の設備投資需要に支えられ好調に推移
- ・自動車部品市場 : 半導体不足の影響等により、減収
- ・衛生用品機器市場 : 需要の回復が部分的なものに留まっており、低調に推移

剰余金の配当（中間）

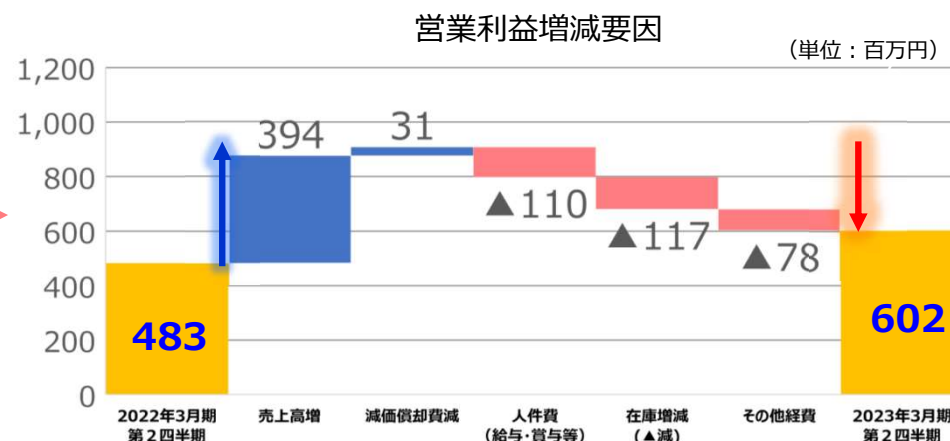
- ・1株当たり60円（2022年12月6日支払開始）を実施。

今後の見通し

- 今後の見通し
 - ・ロシア・ウクライナ情勢の長期化、為替の動向及び感染症リスクの継続等、業績の下振れリスクも多くあり、先行きは不透明な状況が続くと見込む。
 - ・好調が続く半導体・電子部品市場で、需要の一服感から、在庫調整等を見込む。
 - ・自動車部品市場では自動車生産の減産による影響が続くと想定
- ・通期業績予想 2023年3月期通期の業績予想（2022年8月4日公表）に修正はなし。
（受注状況及び市場環境の動向を見極めつつ、予想を修正すべき場合は速やかに公表）
- ・期末配当金予想 2023年3月期の期末配当金予想（2022年9月15日公表）1株当たり60円に修正はなし。
中間配当金と合わせ1株当たり120円の予想。（予想配当性向32.1%）

3. 連結業績の概要

	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	(単位：百万円)	
			対前年比 増減額	増減率 (%)
売上高	5,865	6,611	745	12.7
営業利益	483	602	119	24.8
経常利益	619	756	137	22.2
親会社株主に帰属する 四半期純利益	444	518	73	16.6



連結売上高	66億1千1百万円 (前年同四半期比12.7%増)	<ul style="list-style-type: none"> 半導体・電子部品市場：好調を維持 産業用機器・部品市場：国内外の設備投資需要に支えられ好調に推移 自動車部品市場：半導体不足の影響等により、減収 衛生用品機器市場：需要の回復が部分的なものに留まっており、低調に推移
営業利益	6億2百万円 (同24.8%増)	<ul style="list-style-type: none"> 前年同四半期を上回る売上高を記録 製造経費並びに販管費の圧縮等の収益改善活動を進めた結果、増益
経常利益	7億5千6百万円 (同22.2%増)	<ul style="list-style-type: none"> 営業利益の増加や、円安が進行したことによる為替差益の計上等により、増益
親会社株主に帰属する当期純利益	5億1千8百万円 (同16.6%増)	<ul style="list-style-type: none"> 各利益の増加に伴い、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同四半期比16.6%増となった。

4. 主な経営指標

区分	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期
売上高営業利益率 (%)	10.1	4.7	△ 0.2	8.2	9.1
自己資本四半期純利益率 (%)	5.4	2.7	1.5	4.4	4.8
1株当たり四半期純利益 (円)	215.39	109.86	61.60	184.37	214.52

← コロナ禍以前

- 売上高営業利益率が9%台となり、業績好調だった2019年3月期（2018年度）第2四半期の水準に近づく。
- 自己資本四半期純利益率（ROE）は4.8%となり、「日本タングステングループ2024中期経営計画」の最終年度（2024年度）の目標値である8%（年度値）を上回るペースで推移。
- 1株当たり四半期純利益は214円52銭となり、2019年3月期（2018年度）第2四半期時のレベルまで回復。

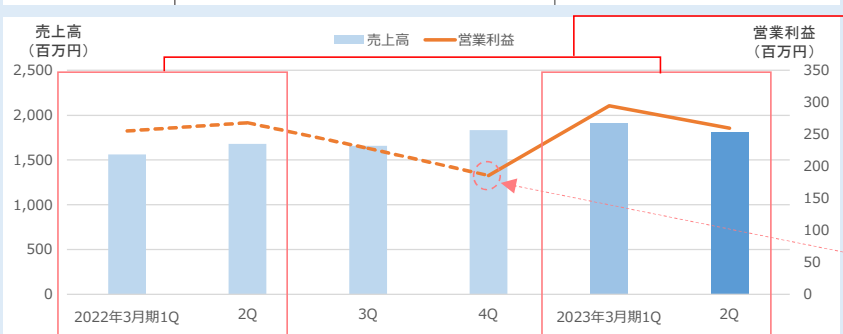
5. セグメント別の状況

■ セグメント業績の概要

		(単位：百万円)		対前年比	
		2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	増減額	増減率 (%)
機械部品 事業	売上高	3,240	3,723	482	14.9
	営業利益	523	554	31	6.0
電機部品 事業	売上高	2,680	2,894	213	8.0
	営業利益	244	305	61	25.3
調整額	売上高	△56	△6	50	-
	営業利益	△284	△257	26	-
全社	売上高	5,865	6,611	745	12.7
	営業利益	483	602	119	24.8

機械部品事業、電機部品事業ともに
対前年同四半期比で増収増益

機械部品 事業	2022年3月期				2023年3月期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	1,562	1,678	1,657	1,833	1,908	1,814
営業利益	255	268	228	185	294	259



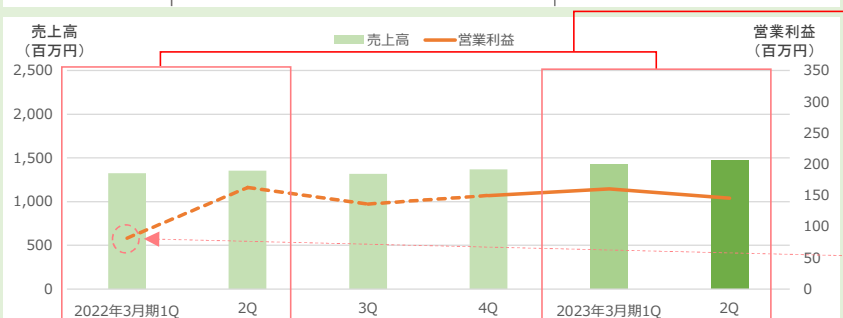
	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期
売上構成比	54.7%	56.3%
営業利益率	16.1%	14.9%

【売上高】
・対前年同四半期比では、14.9%の増加
・四半期推移では、前年度第4四半期から、連続して18億円超の水準で推移

【営業利益】
・対前年同四半期比で6.0%の増益
・四半期推移では、安定した利益を確保

※2022年3月期第4四半期は修繕費等の増加により、他の四半期と比較し減益

電機部品 事業	2022年3月期				2023年3月期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	1,324	1,356	1,317	1,368	1,425	1,468
営業利益	81	162	136	149	160	145



	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期
売上構成比	45.3%	43.7%
営業利益率	9.1%	10.6%

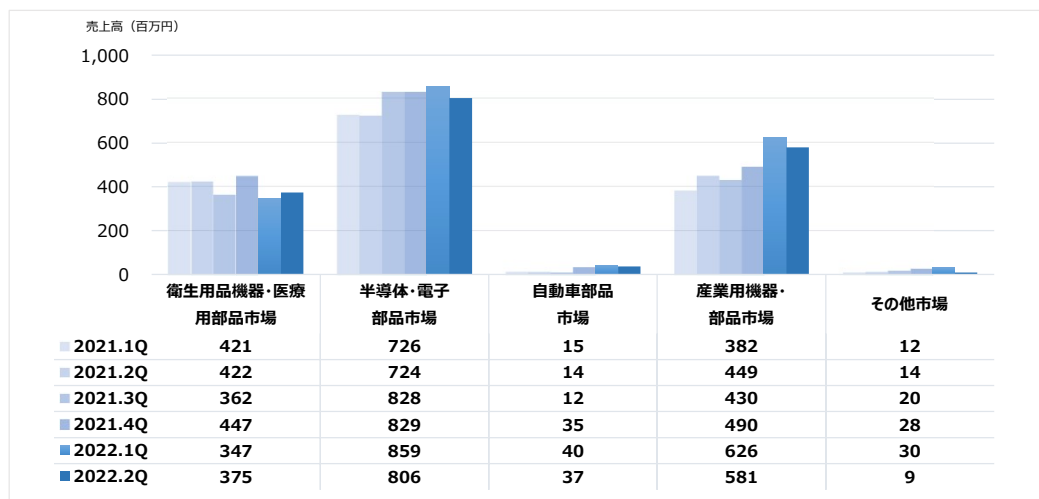
【売上高】
・対前年同四半期比では、8.0%の増加
・四半期推移では、当第1・2四半期が14億円台と堅調に推移

【営業利益】
・対前年同四半期比で25.3%の増益
・四半期推移では、安定した利益を確保

※2022年3月期第1四半期は照明用タングステンワイヤー製品の余剰在庫の処分損・評価損を織り込んだことにより、他の四半期と比較し減益

5. セグメント別の状況

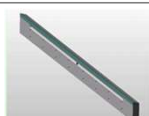
注力市場別業績・主要商品の状況



NTダイカッター



HDD用磁気ヘッド基板



超硬長尺製品
・レンズ成形用金型製品
・二軸混練押出機用の金属部品

※売上高はセグメント間の取引を含んでおりません。

注力市場の主要な商品の状況 (前年第2四半期比)

【半導体・電子部品市場】

情報関連機器のハードディスクドライブ (HDD) 用磁気ヘッド基板

データセンター等で使用される大容量HDDの需要が好調であり、増収

【産業用機器・部品市場】

塗付工具用として使用される超硬長尺製品

液晶ディスプレイ用途が好調で増収

レンズ成形用金型製品

ミラーレスカメラの交換レンズ需要の伸長等により増収

二軸混練押出機用の金属部品

中国での需要が好調であり、増収

【衛生用品機器・医療用部品市場】

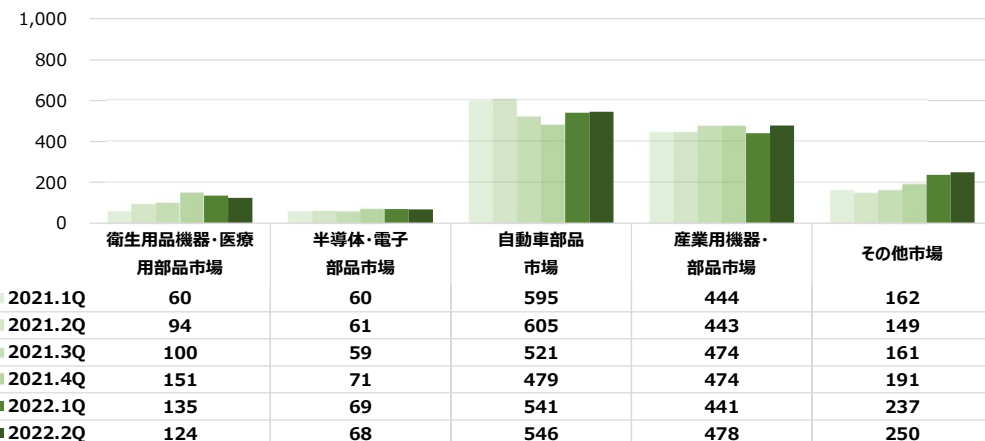
NTダイカッター

中国で需要が増加したものの、顧客の設備投資需要の抑制の影響もあり、減収

5. セグメント別の状況

電機部品事業

売上高 (百万円)



医療関連カテーテル用タングステンワイヤー製品



EV用接点



抵抗溶接電極



ブレーカー用電気接点

注力市場の主要な商品の状況 (前年第2四半期比)

【自動車部品市場】

E V用接点・抵抗溶接用電極

半導体不足による自動車の減産の影響により、E V用接点は若干の減収、抵抗溶接用電極も減収

【産業用機器・部品市場】

産業用設備向けのブレーカー用電気接点

中国向けの需要が好調であり、増収

【衛生用品機器・医療用部品市場】

医療関連カテーテル用タングステンワイヤー製品

海外での需要が継続しており、増収

※売上高はセグメント間の取引を含んでおりません。

6. 財務の状況（連結）

	2022年3月期	2023年3月期 第2四半期	(単位：百万円) 対前年比 増減額
総資産	16,446	16,953	506
負債	5,709	5,727	17
純資産	10,736	11,226	489

主な経営指標

	2022年3月期	2023年3月期 第2四半期
自己資本比率（%）	65.2	66.2
1株当たり純資産（円）	4,447.51	4,637.61

	主な増加要因 (単位:百万円)	主な減少要因 (単位:百万円)
総資産 169億5千3百万円 (前連結会計年度末比5億6百万円増)	現金及び預金 + 192 売上債権 + 400 棚卸資産 + 65	固定資産 ▲96
負債 57億2千7百万円 (同1千7百万円増)	仕入債務 + 101 賞与引当金 + 117	未払法人税等 ▲22 設備関係未払金 ▲155 繰延税金負債 ▲13
純資産 112億2千6百万円 (同4億8千9百万円増)	利益剰余金 + 348 為替換算調整勘定 + 126	-

7. キャッシュ・フローの状況

	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	(単位：百万円) 対前年比 増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	916	493	△423 (収入減)
投資活動によるキャッシュ・フロー	△187	△150	36 (支出減)
財務活動によるキャッシュ・フロー	△110	△182	△71 (支出増)
現金及び現金同等物に係る換算差額	5	25	20
現金及び現金同等物の期末残高	3,084	4,097	1,013

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動により獲得した資金 4億9千3百万円 (前年同四半期比 4億2千3百万円の収入減)

▶ 主に、棚卸資産が増加したこと及び法人税等の支払額が増加

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動により支出した資金 1億5千万円 (同 3千6百万円の支出減)

▶ 主に、設備投資の減少により、有形固定資産の取得による支出が減少したこと及び前年同四半期に投資有価証券を売却したこと等による

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動により支出した資金 1億8千2百万円 (同 7千1百万円の支出増)

▶ 主に、前連結会計年度に係る期末配当金の支払が増加

8. 剰余金の配当

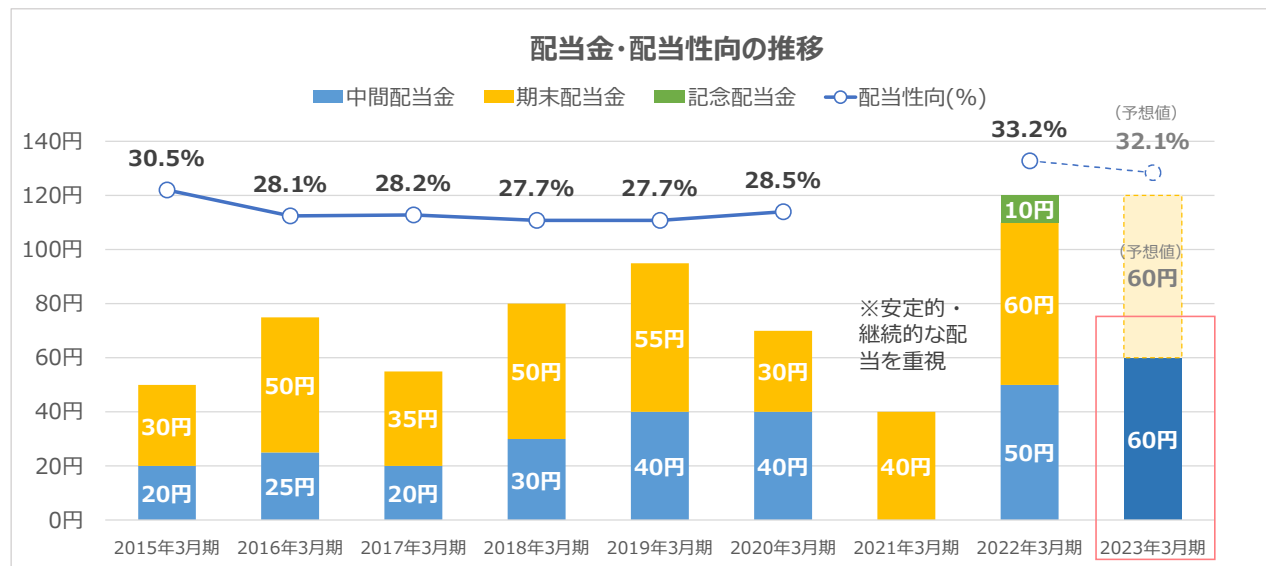
剰余金の配当等の決定に関する方針

当社は株主の皆様への利益還元について、親会社株主に帰属する当期純利益の30%を目安に、新商品開発を推進するための設備・人財・研究などへの戦略的投資、中長期的な企業財務体質の強化等を総合的に勘案しつつ、安定的・継続的な配当に努めます。また、1株当たりの株主価値を向上させるとともに、資本効率の向上を図るため、適宜自己株式の取得に努めます。

剰余金の配当（中間）

当期の中間配当金は、配当方針を勘案した上で、2022年9月15日に公表した中間配当金予想のとおり、**中間配当金 1株当たり60円**。中間配当金の支払開始日は2022年12月6日。

基準日	2022年9月30日
1株当たり配当金	60円00銭
配当金総額	1億4千5百万円
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	2022年12月6日
配当原資	利益剰余金



9. 今後の見通し

経済環境の見通し

・ロシア・ウクライナ情勢の長期化、為替の動向及び感染症リスクの継続等、業績の下振れリスクも多くあり、先行きは不透明な状況が続くものと思われる。

当社グループが注力する市場の見通し

- ・半導体・電子部品市場 ハードディスクドライブ（HDD）用磁気ヘッド基板が、データセンター向け需要の一服感から、在庫調整等が見込まれる。
- ・自動車部品市場 自動車生産の減産による影響が続くと想定。

2023年3月期の通期業績予想について

- ・現時点で、連結、個別ともに2022年8月4日に公表した業績予想値から変更はない。
- ・今後も受注状況及び市場環境の動向を見極めつつ、予想を修正すべき場合は速やかに公表

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,700	5.5	1,050	14.9	1,260	1.7	900	3.4	373.17



業績の推移（連結）

業績の推移（連結）

経営成績（連結）

（単位：百万円）

区分	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期
売上高	6,301	5,711	4,705	5,865	6,611
営業利益	637	267	△7	483	602
経常利益	728	351	136	619	756
親会社株主に帰属する四半期純利益	521	267	148	444	518
純資産	10,014	10,119	10,006	10,357	11,226
総資産	15,950	16,254	15,182	15,629	16,953

経営指標（連結）

区分	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期
売上高営業利益率 (%)	10.1	4.7	△ 0.2	8.2	9.1
自己資本比率 (%)	62.6	62.2	65.8	66.2	66.2
1株当たり純資産（BPS） (円)	4,114.89	4,142.58	4,149.77	4,289.84	4,637.61

本資料は情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却を勧誘するものではありません。

また、掲載されている情報は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社が独自に予測したものであり、リスクや不確定な要素を含んでおります。

従いまして、見通しの達成を保証するものではありません。当社の内部要因や当社を取り巻く事業環境の変化等の外部要因が直接または間接的に当社の業績に影響を与え、本資料に記載した見通しが変わる可能性があることをご承知おきください。

投資に関する最終的な決定は、利用者ご自身の判断でなさるようお願いいたします。